

しおんだより VOL.61



大阪病院学会へみんなで参加してきました！

今年も秋は短かったような気がしますが、そんな晩秋の雨の日曜日、大阪中之島の国際会議場で大阪病院学会が開催されたので、私も朝から参加してきました。

大阪の公的・私立病院の色々な職種が、日頃の業務からテーマを見つけて発表していました。

2年に1回開催されるこの学会は、午前中に、偉い先生方がずらりと並ぶシンポジウムがあり、昼食付きのセミナーのあと、午後は病院で働く様々な職種が、日頃の業務の中での取組をまとめて発表するセッション。夕方には、ゲスト講師をお呼びしての特別講演という、1日で終わる比較的コンパクトな学会です。

当院からも、2年前に初めて参加しましたが、今年も、春先に是非みんなで参加しようということを呼びかけたところ、8部署から9つの演題が集まりました。みなさん、毎日の忙しい業務の合間に縫って、資料を集め、内容を考え、スライドにして発表して下さいました。1ヶ月ぐらい前に、一度、院内で予行を行い、そのときのフィードバックをもとに1週間ぐらい前に最終確認のプレゼント質疑応答を行う…という準備を経たせいか、スタッフの皆さんの発表は、どれも落ち着いていて、聞きやすいものでした。

その成果もあってか、当院で大きな存在感を持つ外国人ケアワーカーについての取組についての3階病棟 藤原ゆかり師長の発表は、なんと優秀演題賞をいただきました。おめでとうございます。こういう活動で得た知識や情報も活かして、私たちの院内での様々な活動を、少しずつでもよりよい方向、あるべき姿を持って行きたいのですね。

当院もやっと「普通の病院」に…！？

学会終了後は、演者だけでなく、聴講（応援！？）に駆けつけた当院のスタッフを交えて、近くのレストランでささやかな懇親会を開催しました。いつもは職場でマスクにユニフォーム姿で毎日会う面々ですが、当日は、みなさんスーツやジャケットでお越しで新鮮でした。



各テーブルを回りながら、皆さんと色々とお話をしたのですが、発表前に緊張したことや、準備はしんどかったけど、発表が終わってしまうと、やってよかったなと思うなど、聞いている私もうれしくなるようなコメントをたくさん頂きました。

学会終了後の懇親会では、発表が終わったあの開放感からか、あちこちから笑い声が聞こえる和やかな雰囲気でした。

若い頃、臨床と教育と研究という3つを鼎立させることができた大事だと、先輩から教えられました。10年前に当院に赴任したころは、なかなかそういうことに取り組める状態ではなかったのですが、みんなと力を合わせてやってきて、そのような考え方を実践できるような病院、いわば、「普通の病院」になってきたのだなと感じ、うれしかったです。



大学時代のボート部の同級生をメインに記念撮影。皆さん、それなりに年を重ねていました。

2年ぶりの同期会は楽しい時間でした

私が大学を卒業したのが、平成7年なので、ちょうど30年前になります。あのころ20代半ばだった我々も、還暦の二文字がちらつく年代になってきました。

数年前から、同期のメンバーが教授になるケースがちらほら出てきており、今年も、私の母校の小児科、そして、関東の私立大学の心臓血管外科の教授が誕生し、お祝いを兼ねて同期会が開催されました。

当日は、二人の教授から30分ずつ講演をしてもらいましたが、学生の頃色々と一緒に遊んでいたメンバーが、紆余曲折を経て教授になるまでの話は、とても面白かったです。

私は大学時代、ボート部に所属し、桜宮の大川で必死に漕いでいましたが、そのときのメンツも数名集まることができました。5人乗りのクルーのうち、2名が教授になっていくことに、改めて驚きました。僕も負けないように頑張らなくちゃ…！そんな思いを胸に帰路につきました。同期のつながりは、いいものですね。（文責：狭間研至）

しおんだより 第61号 発行日：令和7年11月15日

発行人：狭間研至 発行元：医療法人嘉健会 思温病院

〒557-0034 大阪市西成区松1-1-31 電話06-6657-3711 HP: www.shion-hp.or.jp